



# シギ・チドリ類調査 ニュースレター

2023年度秋期概要版

環境省自然環境局生物多様性センター / NPO法人バードリサーチ

## モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査 2023年度秋期調査結果の概要

### 全国109ヶ所のサイトで実施

2023年度秋期調査は、2023年8月1日から2023年9月30日までの期間に実施されました。全国109ヶ所（暫定値）のサイトで調査を実施し、このうち一斉調査（2022年9月17日を基準日とした前後1週間の調査）には96サイトが参加しました。一斉調査期間では、シギ・チドリ類45種6,213羽のほか、ヘラサギ2羽、クロツラヘラサギ24羽が記録されました。秋期の全サイトの最大個体数（調査期間内に記録された各種個体数の最大値）の合計は、シギ・チドリ類52種23,864羽のほか、ヘラサギ9羽、クロツラヘラサギ133羽、ズグロカモメ7羽でした。

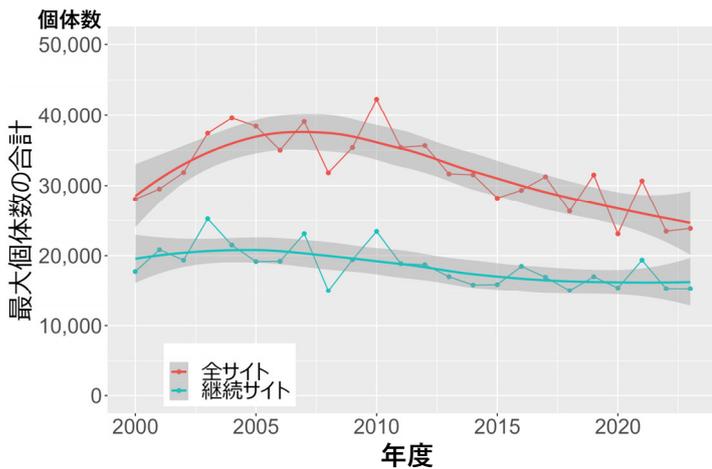


Fig. 1. 秋期調査における全サイトと継続サイトの最大個体数合計の推移（2000年度から2023年度の全サイトN=161,継続サイトN=40）年次変動の大きい海上生活者のヒレアシシギ類は除外。

### 前年に比べ個体数の大きな変化なし

2000年度秋期以降の「全サイト」と「継続サイト（2000年から調査を継続しているサイト）」のそれぞれの最大個体数の合計を、ヒレアシシギ類（年次変動が大きく、海上生活者であるため）を除いてグラフに示しました（Fig.1）。全サイトには廃止済のサイト・新規サイトが含まれるため、継続サイトとは傾向が異なる場合があります。調査年の実績を示すために全サイトを、経年変化を把握するために継続サイトを解析しています。最大個体数の合計を前年度秋期と比べると、全サイトでは369羽増加し23,832羽、継続サイトではほぼ変わらず、32羽減少して15,277羽となりました（前年比、全サイトで1.5%増、継続サイトで0.2%減）。個体数は、全サイト・継続サイトともに、前年比で大きな増減はなく、全サイトでは減少傾向、継続サイトではほぼ安定傾向となっています。

### ハマシギ、トウネン、ソリハシシギが同率で優占

2023年度秋期調査におけるシギ・チドリ類の種構成比をみると、個体数上位は、ハマシギ（12.8%）、トウネン（12.7%）、ソリハシシギ（12.0%）で（Fig.2）、上位3種の優占度はあまり変わりませんでした。キアシシギ、ミユビシギ、ダイゼンが続き、ここ3年ほどは、1～3位グループと4～6位グループに分かれています（Fig.3）。以前は上位3位以内だったキアシシギが、4～6位に下がってきています。また、越冬種のハマシギやアオアシシギが秋期の順位で上昇傾向にあり、冬期の越冬分布に変化している可能性があります。

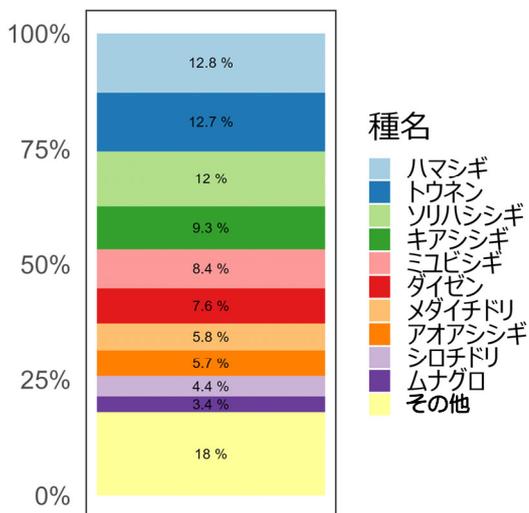


Fig. 2. 2023年度秋期調査における種構成比

## 干潟に生息するシギが減少

種別最大個体数の前年比較では、キアシシギの増加数が最も大きく、383羽（約21%増）増加していました（Table 1 左表）。続いて、メダイチドリ、トウネンが、300羽以上増加していました。最も増加率が高かったのはミヤコドリで、約3.5倍の個体数となっていました。ミヤコドリも主に越冬種であるため、渡来が早まっている可能性があります。減少数の多い種では、オバシギが約1/3に減少、チュウシャクシギが半減、ハマシギ、ダイゼンも減少するなど、主に干潟で観察される種の減少が目立ちました（Table 1 右表）。

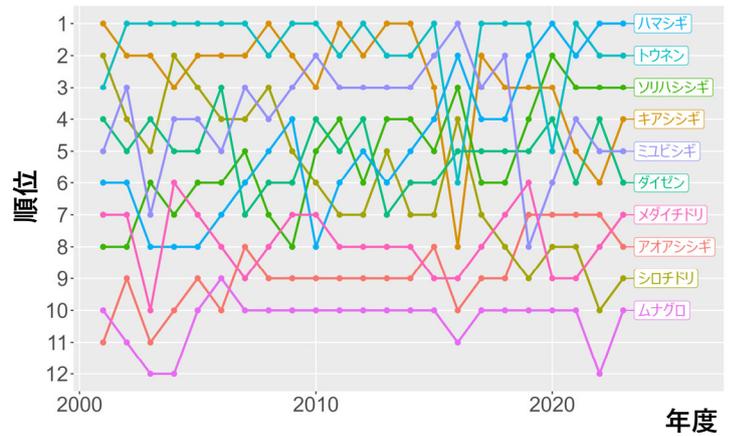


Fig.3. 2023年度秋期調査における最大個体数上位10種の順位の変化(2000年度から2023年度)

Table 1. 2023年度秋期 種別の最大個体数の前年度差 左:増加数上位5種、右:減少数上位5種

2023年度秋期最大個体数 増加数上位種 (全サイト)					2023年度秋期最大個体数 減少数上位種 (全サイト)				
種名	2022年度秋	2023年度秋	前年度差	前年度比	種名	2022年度秋	2023年度秋	前年度差	前年度比
キアシシギ	1,839	2,222	383	1.21	オバシギ	619	231	-388	0.37
メダイチドリ	1,046	1,391	345	1.33	チュウシャクシギ	784	417	-367	0.53
トウネン	2,722	3,028	306	1.11	ハマシギ	3,407	3,048	-359	0.89
シロチドリ	777	1,047	270	1.35	ダイゼン	2,140	1,809	-331	0.85
ムナグロ	551	816	265	1.48	タンギ	377	212	-165	0.56

## 大授揚サイトへの集中傾向

50羽以上観察されたサイトのうち最も個体数が多かったサイトは例年と同じく大授揚（佐賀県：有明海）となり、以下、風蓮湖（熊本県）、野付・尾岱沼（北海道）、白川河口（熊本県）、球磨川河口（熊本）の順でした（Table 2）。大授揚は、2000年以降全調査で最も個体数の多いサイトとであり、多くの上位サイトの個体数が減少傾向にあるなか、増加傾向にあり（Fig. 3）、一局に集中する傾向にあります。

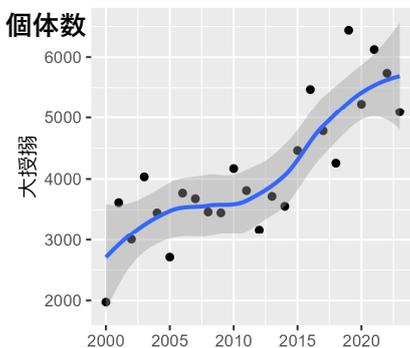


Fig.4. 大授揚の秋期調査における最大個体数の記録の変化傾向(2000年度から2023年度)

Table 2. 2023年度秋期 種別の最大個体数 上位10サイト

2023年度秋期最大個体数 上位10サイト				
サイト	2022年度秋	2023年度秋	前年度差	前年度比
大授揚	5,736	5,093	-643	0.89
風蓮湖	1,135	1,383	248	1.22
野付崎・尾岱沼	646	1,382	736	2.14
白川河口	1,418	1,050	-368	0.74
球磨川河口	498	976	478	1.96
コムケ湖	402	733	331	1.82
宇佐海岸	526	699	173	1.33
氷川	527	682	155	1.29
高松～河北海岸	405	673	268	1.66
泡瀬干潟	645	647	2	1.00

## モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査 ニュースレター タイトル写真:ムナグロ(守屋年史) 2023年度 秋期概要

発行元: 環境省自然環境局生物多様性センター

<https://www.biodic.go.jp/moni1000/>

編集: 特定非営利活動法人 バードリサーチ

<http://www.bird-research.jp/>

編集者 守屋年史

電話/Fax: 042-505-4044

メール: shigichi@bird-research.jp